



伊藤 文子

イトーキ
顧問



五十歳からの
社会デビュー

五十歳からの社会参加とは、女性が働くことが当たり前の現在では考えられないことだろう。しかし、われわれ団塊の世代では、女性は大学を卒業したら花嫁修業をし、結婚するのが当たり前だった。

写真1は、大阪音楽大学ピアノ科を卒業後、初めてリサイクルを開いた折にプログラムに載せた写真で、まだまだ夢いっぱい気分のころである。



1 サマーコンサートパンフレットより

写真2は、娘が米国留学を終えて帰国した折、記念に撮った写真である。娘は、ニューヨーク郊外のザ・マスターズスクール(創立140年の女子高)で三年間勉学に励んだ。当時は、私まで青春時代に戻った気持ちになり、米国生活に触れることができた。ペアレンツ・ウイークエンドという参観日には毎年参加し、個人面接にも頑張って参加した。面白く感じたのは、参観日が夜開かれることであった。仕事を持っている母親が大半であったためだろう。卒業式は六月、緑あふれる校庭で行われ、女性は白のロングドレスを着用することになっていた。私は日本から和服を持参し、日系人の美容院



2 娘の卒業式の記念写真

で着付けてもらった。オーケストラの演奏で、女生徒たちが赤のカーネーションが入ったバスケットを手に持って入場してきた時には、緑と白と赤のコントラストの美しさと、娘の三年間の頑張りに胸が熱くなった。

写真3は、福岡支店開設100周年記念式典(2006年)のものである。イトーキは大阪で創業したが、初めての支店はアジア進出をにらみ、明治三十九年に福岡へ出店した。創業者が、「これからはアジアの時代だ」と読んだからだ。しかし、そのようになるまでには随分長い年月がかかった。もし創業者が生きていたら、「ほら、自分の読み通りになっただろう」と自慢したことだろう。いよいよアジア全盛を迎えつつある今、曾祖父の見識には頭が下がる。



3 福岡支店開設100周年記念式典(2006年)。前列左端が筆者